

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0772500401		
法人名	医療法人社団小野病院		
事業所名	グループホームラポール		
所在地	福島県耶麻郡北塩原村大字北山字地藏堂2904		
自己評価作成日	平成30年12月17日	評価結果市町村受理日	平成31年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成31年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人、ご家族のおもいを大切に、ホームに入居されても馴染みの暮らし、馴染みの関係が継続できるように支援しています。地域との繋がりも大切に、行事(運動会、敬老会、交流会等)参加し、なじみの顔に会うことを楽しみにされています。又、ホームに隣接している、保育園、デイサービスとは、常日頃から交流を図っており、今年は、地域の方が、ホーム近くの畑を貸していただき、利用者ご家族様に畑を耕して頂き、沢山の野菜作りを行いました。収穫時には、利用者様と保育園児たちが一緒に芋ほりを行いました。夏祭りには、地域の踊りの会の団体の方に訪問して頂き、日頃一生懸命練習されている踊りを披露して頂き、畑で収穫した野菜で夏野菜カレーと一緒に食べました。地域の方々の温かさにふれながら、地域の方々と一緒に利用者様の暮らしを支えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 近くに村役場や住宅地があり、散歩、買い物、畑仕事を通して、日常的に近隣との交流に努めている。さらに、村の運動会への参加、近隣の保育園やデイサービスとの交流、村内のグループホームとの芋煮会の開催、各種ボランティアの受け入れ、「こども110番の家」の指定受託など積極的に地域との交流を図っている。
2. 週2回開催しているお茶会で利用者の話を傾聴しながら、センター方式のアセスメント様式を使用しカンファレンスで職員全員で話し合い、利用者の思いや望む生活の把握に努めている。それらを踏まえ、日常生活の中で、壁面装飾やマスコット人形作り、畑仕事や食事の手伝いなど一人ひとりが活躍できる場を設けるなど役割を感じられるきめ細やかな個別支援が提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、その人らしく生き生きと生活が送れることを理念の柱に於き、理念について、業務会議や日常的に職員間で話し合い、共有している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を策定している。理念は、ホール、事務室と職員トイレに掲示し、いつでも確認できるようにしている。また、毎年、業務会議で見直しを含めた理念の検討を行い、職員が理念の意味を熟考する機会を設け、浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(運動会、敬老会、お祭り、文化祭等)には、積極的に参加し、交流を図っている。又、夏祭り、芋煮会には、地域の踊りや歌のボランティアの会の方々も参加して頂き、交流を図っている。又、子供110番の家の設置、登録を依頼され、地域ぐるみで子供たちの安全を確保する活動を行っている。	毎年、小学校と合同開催の村の運動会で利用者が宝拾いなどの競技に参加し、地元住民との交流を図っている。近隣の保育園とは、事業所の敬老会や保育園のクリスマス会に互いに招待し、継続的な交流を行っている。また、地域の防犯協会の依頼を受け「子ども110番の家」の指定を受けるなど地域活動にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加し、交流をして来た事により、認知症になっても、地域の中で生き生きと暮らしていけると言うことを、発信できている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	日々の暮らしや行事などを報告している。又、事業所の課題を話し合い、サービスの向上に活かしている。地域の防災、地域行事への参加協力等、ホームの応援団となって頂いている。	運営推進会議は、2か月に1回開催されている。事業所からの報告だけでなく、抱えている課題を議題にあげ委員からは様々な意見が出されている。また、夜間想定避難訓練を運営委員会の委員に見学してもらい、出された意見を訓練の見直しに活かすなど、委員の意見等を運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常日頃から相談又は、情報を共有するなど、お互いにサービスの質の向上に向けた取り組みをしている。定期的開催される、地域ケア会議にも参加し、情報の交換、地域の課題を話し合っている。	村役場職員が運営推進会議の委員になっており、事業所の状況や課題について共通理解が図られている。また、役場が事業所の近くにあり、日頃より管理者等が訪問したり、電話で相談を行うなど緊密な関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、ホーム内外の勉強会にて、学ぶ機会を多く持ち、全職員が理解している。身体拘束によって入居者が受ける身体的、精神的弊害について理解し、拘束のないケアを実践している。	法人主催の勉強会を年2回実施し、職員への周知を図り身体拘束をしないケアに努めている。日頃のケアについて、申し送りや業務会議でその都度話し合い、管理者から注意を促し、拘束のないケアの実践を図っている。また、家族には事業所内の生活上のリスクを説明のうえ、身体拘束をしないケアに対する理解が得られるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての理解ができるよう、ホーム内外の勉強会に参加し、学ぶ機会を多く持つようになっている。入居者とは、常に会話をする時間を取り、どんな小さな変化にも注意し、虐待が見過ごされないよう、注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて、権利擁護に関する制度を学んでいる。現在、後見人制度を利用されている方がおり、後見人とは、常に話し合ったり、相談したりと、一緒にその利用者を支えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改定時は、利用者、家族が不安や、疑問が生じないよう、十分な説明を行い、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは、面会時や、行事、計画書の説明の時など、何でも話せる雰囲気づくりをしている。推進委員が訪問した際には、利用者に気軽に声をかけて下さり、意見の吸い上げを行っている。	入居時に利用者や家族の意見を確認している。また、利用者のお茶会を週2回開催し、1時間程度お茶を飲みながら、ゆっくり利用者の話に耳を傾ける時間を設け、利用者の意見の把握に努めている。家族からは、面会時やケアプランの説明時に感じていることや意見を聴くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議をはじめ、職員の気付きを大切に、何時でも、意見、提案ができる職場環境をつくっている。法人の代表者は、常に事業所を訪れ、職員に声をかけたり、話し合いをしている。又、いろいろな行事にも参加してもらっている。	管理者は、日頃から朝のミーティングや業務の中で職員の意見を聞くようにしている。また、業務会議では職員から意見を聞く時間を設けている。職員より相談や意見を言って来ることが多いが、管理者は職員の様子を見て個別面談を行い、意見や要望の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に応じた勤務体制にて、働きやすい環境づくりを行っている。又、資格取得を推進し、スキルアップが図られている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修会、ホーム内の研修会を開催し、職員の質の向上に努めている。今年度は、実践者研修、認知症キャラバンメート養成研修等を受講した。又、村主催の講演会にもお誘いを受け参加させてもらい、学ぶ機会を多くつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣市町村のグループホーム連絡協議会に参加している。課題を持ち寄り、勉強会を行っており、サービスの向上に活かされている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査に伺う際には、馴染みの深いケアマネジャーに同行してもらい、不安なく、本人が困っている事などを話して頂ける雰囲気づくりをしている。本人のおもいを受け止め、信頼関係が築いていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際に、ご家族が困っていること、不安に思っていることをしっかりと受け止め、サービス導入時には、不安、問題等を共有し、共感し合いながら、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族に協力して頂き、生活歴、本人とご家族のおもいを引き出し、今、必要な支援を見極めている。又、ケアマネジャーからもアドバイスをもらい、支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人、お一人が役割を持ち、活躍できる場を提供している。行事の際には、風習を教えて頂いたり、生活のあらゆる場面で学ぶ事は多く、共に尊重しながら、支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のおもいを、ご家族と共有し、共に支えていけるよう、協力を頂いている。毎月近況報告の手紙もご本人のおもいをのせ、共有して頂き、協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所を把握し、継続的な交流が図れるよう支援している。毎年村の敬老会に参加し、馴染みの顔に会うことを楽しみにされている方や、馴染みの美容室に通われたりと、関係が途切れないよう支援している。	利用者が、馴染みの人たちとの再会の場として何よりも楽しみにしているのが村主催の敬老会であるため、希望する利用者が出席できるように支援している。また、家族の協力により行きつけの美容室に出かけたり、利用者の希望により職員と車で利用者の生家を訪問したこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれに、生活歴が違う利用者が共同生活をする事を踏まえた上で、利用者同士が共に支え合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了時には、利用終了後も必要に応じて、相談に応じる事をお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく暮らして頂く為に、日常の会話の中から本人のおもいを引き出し、全職員に伝わるよう、記録に残している。又、センター方式の活用により、本人の意向の把握に努めている。	センター方式のアセスメント様式を使用して、利用者の思いや希望の把握に努めている。生活歴やエピソードは家族に依頼して記入してもらい、これらをもとにカンファレンスで職員で話し合い、利用者の思いや意向の把握に努め、情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用により、個々の生活歴を把握し馴染みの暮らしの継続に向けた支援をしている。居宅ケアマネージャーより、在宅でのケアプランを見せて頂き、支援の継続に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の様子や状態、行動、言動を個別記録に残し、職員間で情報を共有しながら、支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今までの生活歴、本人、家族のおもいを大切に又、日々の会話から生まれる気づきを活かして、介護計画を作成している。	入居時のケアプランは、在宅のプランを参考しながら、家族や利用者の意見や要望を踏まえて職員全員で話し合いながら作成している。モニタリングは毎月のカンファレンスで部屋担当職員が経過報告を行い、実施している。ケアプランは基本的に3か月サイクルで見直しを行っているが、状況等の変化により適宜、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別に記録している。毎日の申し送り、定期的に行われるモニタリング、カンファレンスにて、情報を共有しケアプランの見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに対応できるよう、柔軟に対応している。家族の支援が難しい時は、受診に付き添ったりと、その時にあった支援やサービスを行えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各種関係機関、団体等と連携、協力している。地域行事の参加、文化祭への出展等にて、本人の力を発揮する機会を作ったり、外出支援にて、暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を確認し、適切な医療が受けられるよう、支援している。受診結果は、その都度報告し合い、情報を共有している。又、協力病院へは、24時間いつでも受診できる体制がある。	かかりつけ医への受診については家族と協力しながら、利用者の状態を文書にして家族へ渡すなど、正確な情報のやり取りができるようにしている。訪問歯科の利用や24時間受診できる救急体制の整備など、利用者が適切な医療が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師と情報の共有をする事により、個々の利用者が適切な受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、かかりつけ医、医療機関相談員と情報交換を行い、早期退院に向けた話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに関しての指針を契約の段階で説明、同意を得ている。状態が変化した場合は、その都度家族の意向を確認しながら、事業所ができる最大限の支援を行っている。	入居時に家族へ重度化や看取りについて指針を説明し、人生の終末について話し合っている。現在は職員体制や設備面から看取りを行ってはいないが、利用者の状態に応じて、家族に説明し意向を確認しながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修を行い、急変や事故発生時に即対応できるようにしている。又、定期的に、普通救命講習を受けている。応急手当普及員の資格を持っている職員もあり、緊急時に直ぐに対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定火災避難訓練。地震、水害、土砂災害避難訓練を実施している。ホームには、防災無線が設置しており、災害発生情報を瞬時に受け取る事ができる。推進会議でも、避難訓練の様子を見て頂いたり、地域との協力体制を話し合っている。	夜間や地震、水害等の想定訓練を、年間の予定に沿って行っている。防災について運営推進会議で取り上げたり、地元消防団の協力を仰ぐなど、地域の支援体制づくりを行っている。非常食の備蓄を定期的を確認し、食事やおやつに取り入れるなど、日常的に防災を意識している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、個々に合った言葉かけや対応をしている。プライバシー保護の研修会も行っており、特に排泄時の声掛けには、充分な配慮をしている。	プライバシーや接遇についての職員研修を行い、全職員で共通認識を持っている。ケアの場面でも利用者一人ひとりに合わせた声かけ、対応を行っており、自尊心や人間の尊厳について配慮されている。居室の扉に窓があり、廊下から居室内が見える場合がある。	プライバシーへの配慮から居室の扉について、廊下から居室内を見えにくくする工夫が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人に選んで頂く場面作りをしている。(お茶の時間の飲み物、献立作成、外出の希望等)茶和会時の何気ない会話から、本人のおもいを引き出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活が送れるよう、その時の本人の気持ちを尊重し、個別性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は、好みの洋服を選んで頂いています。時には、一緒にショッピングに出かけ選んできたり、呉服屋さんの訪問販売もあります。特別な日には、特におしゃれな服装や化粧をしたり、美容室でパーマやカラーでおしゃれを楽しんでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	一緒に献立を考え、食材購入に出かけ、料理を作り、盛り付け、配膳、下膳とできるところを役割分担で行って頂いている。畑で収穫した野菜も献立に取り入れ、作る喜びも味わっている。	1日置きに利用者と買い物に行っている。日曜日をお楽しみ献立の日としており、利用者と一緒に献立を考えている。食事を中心として、買い物、野菜作り、調理等様々な工程を通し、利用者の喜びにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分摂取量を確認、記録している。一人ひとりの状態に合わせた食形態の工夫、量、水分摂取の工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや見守りを行い、利用者の状態に合わせた介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄サインや排せつリズムを把握し、声掛け、誘導を行っている。できるだけトイレで排泄できるよう支援している。	個別の排泄記録をもとに、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援している。入居後皮膚状態や排泄の状態が良くなった利用者も多く、自立につながる支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、発酵食品、食物繊維を多く含む食材を提供している。又、適切な水分摂取、適度な運動を行って頂いている。個々に応じた、飲食物の工夫も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	生活習慣を把握し、一人ひとりの生活リズムを大切にしている。お風呂の好きな方には、ゆっくりと入浴して頂けるよう時間をとっている。季節事に花や果物を浮かべたりと楽しんでいる。	夏場は毎日、寒い時期は週3回は入浴できるよう体制を作っており、一人ひとりのリズムを大切にしながら声かけている。季節に応じて、近隣の桜や育てているバラ等を浮かべ、利用者がゆったりと入浴を楽しめる工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し、個々に対応している。又、身体状態やその時の体調を考慮して、休息して頂いている。寝具も馴染みの物を使って頂いたり、安心してお休みになれるような声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の情報や副作用のリスク管理ができるよう、一覧表(内服薬のしおり)を作成している。状態の変化については、医師に相談しカルテに記入し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、その人らしく個々の能力に合った生活ができるよう役割を持ち、趣味も活かし、活躍の場を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望に添って、ドライブ、買い物など、できるだけ外の出る機会を多くしている。地域の行事に参加するときは、家族、地域住民の方々に協力して頂きながら、外出の支援に努めている。	日光浴や散歩、畑の草むしりなど、日常的に外に出ている。桜や紅葉の時期等、季節の外出も計画的に行われ、地域の行事やなじみの場には家族の協力を得ながら、一人ひとりの希望に応じた外出を行っている。村内のグループホームの交流として芋煮会を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭を所持されている方はおらず、おこずかい、日用品購入分のお金は、職員が管理している。お預かりしていることを説明し、何時でも欲しい物があれば、購入出来ることを伝えている。又、自分で、買物の時支払ができる方には、お金を持って支払う機会をつくっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、何時でも電話をかけられるよう、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、廊下には季節を感じられるような、利用者の方々が協力して作った作品や、個人で制作したものを飾っている。湿度、温度等に配慮し(加湿器の使用)居心地よく過ごせるように配慮している。	自然光がたっぷり入る窓があり、季節の花や利用者と職員が一緒に作る作品を飾るなど、季節感を大切にしている。利用者が心地よいよう温度や湿度、におい等配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、和室等、自由に利用して頂いている。居間の席は、気の合った利用者同士で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	居心地よく、安心して過ごせるよう、馴染みの物、大切にされている物、自由に持ち込んで頂いている。その人らしく過ごせるよう、支援している。	居室には作りつけのクローゼット、洗面台、ベッド等があり、居室内は清潔に保たれている。自宅から家族の写真、位牌、裁縫箱等なじみの物を持ち込む利用者が多く、安心できる環境づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリーになっており、安全に生活できるようになっている。車いすのまま台所で作業ができたり、洗濯干しの高さが調整できたりと、生活環境のあらゆる所に自立を意識した工夫をしている。		